

# 学 位 論 文 の 要 旨

三 重 大 学

所 属	三重大学大学院医学系研究科 甲 生命医科学専攻 臨床医学系講座 乳腺外科学分野	氏 名	中村 佳帆
<p>主論文の題名</p> <p>Preferences Regarding Breast Surgery Omission Among Patients With Breast Cancer Who Receive Neoadjuvant Chemotherapy</p> <p>主論文の要旨</p> <p>【背景/目的】</p> <p>乳癌に対する術前化学療法(neoadjuvant chemotherapy. 以下、NAC)は局所進行例のみならず手術可能な早期乳癌に対しても標準治療となり、近年、ヒト上皮成長因子受容体 2 型(human epidermal growth factor receptor type 2. 以下、HER2)陽性およびトリプルネガティブ乳癌における NAC 後の病理学的完全奏成功率は 60%に達している。この知見により乳房手術省略に医師の関心が集まっている。現在、NAC が奏効した乳癌患者を対象に、乳房手術省略の安全性を検討するいくつかの前向き研究が進行中である。しかし、乳房手術の省略に関するこれらの患者の意向に関する情報はほとんどない。本研究では乳房手術省略に関する患者の意向を医療者が理解し、今後の乳房手術省略に関する大規模前向き試験の実施や臨床導入へ役立てるため、NAC 後に病理学的奏功が得られた場合の乳房手術省略に関する患者の意向と局所再発や全生存(overall survival. 以下、OS)のリスクに関する認識について調査した。</p> <p>【患者と方法】</p> <p>2022 年 1 月から 2022 年 8 月の間に術後の定期フォローアップとして国内 6 施設のいずれかを受診した、HER2 陽性またはエストロゲン受容体陰性で NAC が奏効した乳癌患者を対象に乳房手術省略に関する意向を評価するためのアンケート調査を実施した。NAC が奏効し乳房手術省略の臨床試験への参加を勧められた場合という仮想のシナリオを提示し、患者は手術省略を希望するか否か、およびその理由に該当するものを選択した。また、乳房手術を通常通り受けた場合と省略した場合の同側乳房内再発(ipsilateral breast tumor recurrence. 以下、IBTR)や OS のリスクに関する患者の推定値も調査した。</p> <p>【結果】</p> <p>142 人の患者にアプローチし、93 人の患者が解析対象となった。そのうち乳房手術を省略すると答えたのは 22 人(23.7%)のみで、36 名(38.7%)が手術省略を希望しなかった。手術省略を希望する理由としては「乳房の変形や手術創を最小限にしたい」</p>			

(72.7%,  $p<0.001$ )が最多であった。一方、手術省略を希望しない理由としては「乳房に再び乳癌が出現する危険性なるべく減らしたい」(83.8%,  $p<0.001$ )が最多であった。

乳房手術を省略した場合の患者推定 5 年 IBTR 率は、乳房手術省略を希望する患者(中央値 10%)よりも手術省略を希望しない患者(中央値 30%)で有意に低かった( $p=0.017$ )。

#### 【結論】

今回調査した患者のうち乳房手術の省略を希望した患者の割合は低く、乳房手術省略に多くの医師が関心を示していることと対照的であった。乳癌治療と再発リスクに対する認識は、医師と患者間で必ずしも一致するわけではないと認識しておくことが重要である。また、乳房手術省略に関する患者の意向は患者の再発リスクに対する認識に強く依存していることが明らかになった。しかし、乳房手術を省略したいと答えた患者は、5 年 IBTR リスクを過大評価していた。